

事業方針

取組の柱

令和2～4年度の取組

医療介護従事者がACPについて理解し、意思決定支援を行えるようになる

◎ ACPを理解し、意思決定支援をする医療介護従事者

日々の意思決定支援の中で、本人の最終段階に向けた意思決定支援を行うことができるようになること。また、終末期に向けた意思決定支援として、家族との調整や倫理的な課題にも適切に対処できるようになること。

- ・医療介護従事者へACP、終末期における意思決定支援についての基礎的な事項の啓発（**理解促進**）
- ・積極的な治療や介護を希望しないこと等、倫理的な課題についても多職種で連携し、対応していくことができる地域の資源の養成（**連携体制の強化**）
- ・ACPとは話し合いの場を設けることで完結するものではなく、医療・ケアについて考え、価値観を共有するプロセスであることを踏まえ、進行中のケアプランと切れ目なく意思決定支援することができるようになること（**支援力の向上**）

	研修内容	
	事前聴講動画	リアルタイム講義
令和2年度	○ACPの基礎知識について 法的な視点や倫理的観点等6つのポイントからACPについて紹介	○事例紹介 ・認知症のある方の事例（在宅医の立場から） ・病院内における、医療提供者の方針と本人や家族の意向が沿わない場合の事例（病院医師の立場から）
令和3年度	○ACPの基礎知識について 「わたしの思い手帳」で取り上げる5つの事例から、意思形成支援／意思表示支援／意思実現支援について学びを深める ○新型コロナをはじめとした急性期疾患に備えて	○事例紹介 ・入退院を繰り返しながら自宅で最期まで過ごすことを望む方の事例（訪問看護師の立場から） ・認知症ではあるが住み慣れた自宅で暮らし続けたい方の事例（地域包括支援センターの立場から） ○パネルディスカッション
令和4年度	○ACPについて ～ACPの始め方、進め方～	○パターンリズムとACP ○病院医師が取り組む院内でのACP推進 ○自治体に取り組む地域でのACP推進 ○パネルディスカッション

※各年度のアンケートにて、各研修科目について「参考になった」と答えた受講者の割合

	事前聴講動画	リアルタイム講義	パネルディスカッション
令和2年度	98%	98%	-
令和3年度	96%	92%	93%
令和4年度	87%	84%	81%

【参考】令和4年度研修受講者アンケート

開催形式の希望

オンライン開催	357 (92%)
会場開催	8 (2%)
両方選択	25 (6%)

開催曜日の希望

平日	310 (68%)
土曜日	108 (24%)
日曜/祝日	40 (9%)

開催時間の希望

午前中 (9-12時)	33 (8%)
午後 (13-16時)	98 (22%)
夕方 (16-19時)	101 (23%)
夜間 (19時以降)	206 (47%)

開催方式の希望

グループワークを含めた研修	37 (9%)
講義及びパネルディスカッション等の座学研修	312 (80%)
両方選択	41 (11%)

ACPについて、より理解を深めたい内容や、アドバンス・ケア・プランニング取組推進研修において取り扱って欲しい内容

○事例をもとにした実践的な内容（希望が多かったもの）

《患者ごとの事例》

- ・認知症患者など、意思表示が困難な方の事例
- ・ガン末期患者など、終末期患者の事例
- ・若い世代や働く世代（若年性がんや難病など）の事例

《支援者側の事例》

- ・病院と在宅の連携の事例
- ・ケアマネなど、介護側からの事例
- ・特養や老人ホームでの事例

《その他》

- ・困難事例、失敗事例
- ・患者や患者家族側からの事例
- ・「わたしの思い手帳」を活用した事例
- ・海外の事例

○その他

- ・病院で行うACP、中小病院で行うACP、病院看護師の立場で行うACP
- ・実践したACPの評価方法
- ・パターンリズム防止の仕組み
- ・急性の病気で突然亡くなる可能性がある患者に対してのACP
- ・個人の要望、医療面だけでなく相続や埋葬の方法の聞き取り方
- ・臨床心理士の講義
- ・独居の方の事例
- ・老衰、良性疾患、悪性疾患など症例ごとのACPの違い
- ・最新の知見（研究報告）

○患者及び患者家族に対する言葉の使い方、切り口、とっかかり、コツなど。外してはいけない質問。

○院内（組織内）でのACPを進めていくための方法(準備、実践、評価)

○地域住民へのACP普及の方法

○事前聴講動画

R2～4の事前聴講動画とリアルタイム講義をACPの基礎としてアーカイブ配信

○事例発表・パネルディスカッション(昨年度と同様に実施)

アンケート結果を踏まえ、事例をもとにした実践的な内容をテーマにして実施

《候補テーマ(アンケート結果のうち、過去に扱ってない事例)》

- ・若い世代や働く世代(若年性がんや難病など)の事例
- ・ケアマネなど、介護側からの事例
- ・特養や老人ホームでの事例
- ・患者や患者家族側からの事例
- ・困難事例、失敗事例

○グループワーク(R5新規)

多職種で密に連携を取りながら進めていくことができるよう事例検討を中心に据えたグループワークを実施

- ・グループ分け：多職種
(もともと地域で連携している多職種のチームだと、その後の実践的な取組に生かされるか)
- ・テーマ案：事例検討
自分自身や自分の家族を想定したACP
(「わたしの思い手帳」に書き込んでから参加してもらう?)
- ・ファシリテーター：委員の先生方(8名)にファシリテーターとして参加していただくか?
- ・人数：5名×16グループ=80名
- ・実施方法：対面にて実施
- ・実施日：オンライン研修の後、別日に設定

グループワークのテーマは、事例発表・パネルディスカッションの内容と同じにするなど、関連性を持たせる

※一般的にGWの前には講義等があり、その内容を踏まえてGWを行うが、今回は別日に設定予定であるため